

高知県の木質バイオマス利用の拡大に向けた今後の展開

1. これまでの取組みにより着実に前進

「木質バイオマスボイラー導入状況」
基金事業を活用し、3年間で木質バイオマスボイラーが大幅（1.18台増）に増加【（H23年度末見込み）】

- ◆合計台数 139台
- ◆分野別の割合
 - ・園芸施設 113台（81%）
 - ・冷暖房施設 8台（6%）
 - ・温泉施設 7台（5%）
 - ・その他（養蚕施設等） 11台（8%）

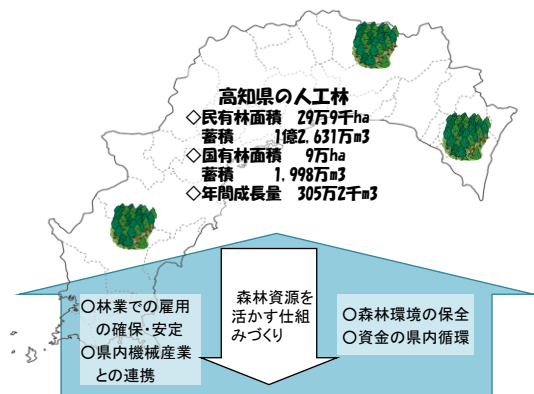
「木質バイオマス燃料の県内供給状況」

- ◆ペレット製造施設 6箇所（生産可能能力6,500t）
- ◆燃料用チップ製造施設 2箇所

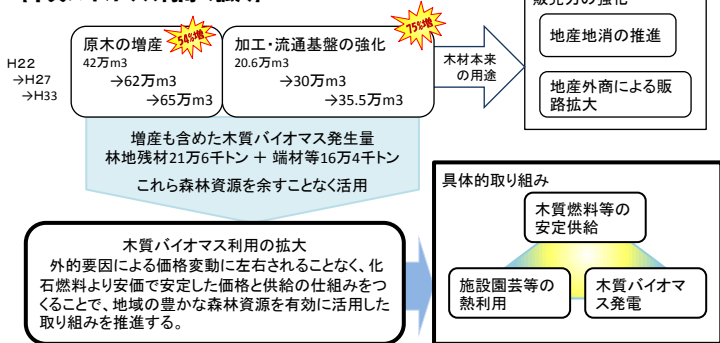
「石炭との混焼による木質バイオマス発電の取り組み状況」

- ◆住友大阪セメント(株)須崎工場で実施
- ・平成21年度実施量 約2万3千トン

2. 林業・木材産業の再生の中での木質バイオマスの基本的考え方



高知県産業振興計画【木質バイオマス利用の拡大】



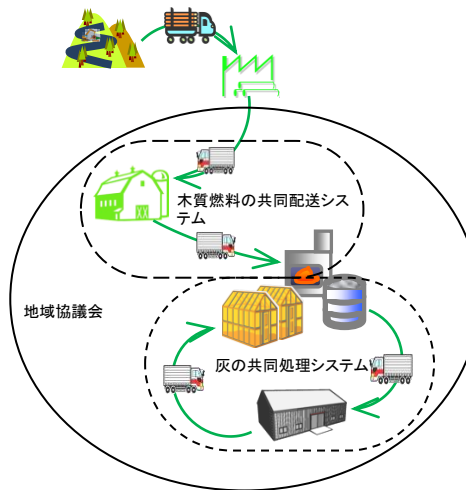
木質バイオマス利用拡大に向けた目標値
H21年度実績 22万7千トン → H27年度 34万トン → H33年度 38万トン

- 木質バイオマス利用の拡大に向けた課題
- ◆木質燃料
 - ◆安定した価格
 - ◆安定供給
 - ◆配送コスト
 - ◆燃焼灰
 - ◆回収コスト
 - ◆処理コスト
 - ◆機器の導入
 - ◆導入コスト

3. 今後の利用拡大に向けた取り組みの方向性（課題への対応）

ア、効率的な事業展開

- ◆持続可能な地域循環システムの仕組みの検討

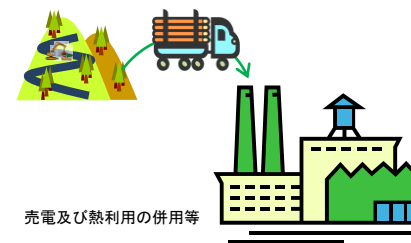


- ◆集約型地域熱利用の可能性を調査



イ、木質バイオマス発電

- ◆木質バイオマス発電の推進



ウ、総合カスケード利用に向けた新たな展開

- ◆多様な用途への対応を考慮した総合カスケード利用の検討と供給体制の整備

